



ナビゲーション

——— 自立への道案内 ———



もくじ

●自立生活の最前線から 自立生活夢宙センター（内村さん）編……………	2
●社会資源情報（ネットカフェ第2回）（山下、小坪）……………	9
●連載エッセイ（第2回）（岸田美智子）……………	14
●編集後記……………	18

～自立生活の最前線から～

自立生活夢宙センター・内村 恵美さんに聞く

取材日：2010年1月22日（金）
場 所：自立生活夢宙センター

今回の「自立生活の最前線から」は大阪市住之江区にある自立生活夢宙センターでスタッフをされている内村恵美さんにスポットを当てたいとおもいます。

自立生活夢宙センターでは相談や機関紙の編集をはじめ様々な活動をされています。昨年の夏に行われた2009ASIA TRYでは日本のリーダーを務められました。最近では全国やアジアにも活躍の場を広げつつある内村さんにインタビューをしました。

～はじめに～

足立：内村さんってずっと大阪に住んではるんですか？

内村：生まれも育ちも大阪。実家は東淀川区です。

松崎：兄弟はおられますか？

内村：9歳離れてるお姉ちゃんがいます。

小坪：生い立ちを簡単に教えてもらえる？ ず～と地域の学校に行ってたん？

松崎：内村さんと小坪くんは仲が良い感じやけど知り合いなん？

内村：同じ障害児施設に同じ時期にいた事があって、そこでの幼なじみなんですyo。

小坪：施設内にあった学校でも同じクラスやったし、机並べて勉強してたんですよ（笑）

松崎：仲がいいのも納得ですね。内村さんの生い立ちを教えてもらえますか。

内村：生まれてきた時は障害がわからず生まれてきて、お母さんが言うには小さい時はいつも、給料日前になったら高熱を出す子やったみたい。

足立：いつ頃までそんな感じやったんですか？

内村：3歳か4歳の時に目が斜視になって手術したりとか、それが終わったら顔面神経麻痺になったりとか。小さい時はそんなことがよくあったみたいやわ。



～1年くらい病院廻りをして障害が分かりました～

足立：シャルコマリートゥース氏病（以下はシャルコマリーと略す）ってわかったのはいつ頃なんですか？

内村：小学校1年生の3学期の時に、マンションの階段を飛ばしながら下りてたら、足が痛くなって、足が痛いのが2～3日治らなくて整骨院へ行った時に先生に「足が曲がってるから何かの病気だろう。だから大きい病院に行ったほうがいい」って言われたんですよ。

松崎：それまではやりにくい事とかなかったんですか？

内村：ウサギ飛びが出来なかったり、走ってもみんなより遅かったけど気にしてなかったですね。

小坪：俺も障害が分かるまでかなり病院廻りしたけど恵美ちゃんはどうやった？

内村：私も1年ぐらい色々な病院廻ったかな。障害児施設のドクターが定期検診に来てたんですよ。そこで「たぶんシャルコマリーだろう。」って言われた。

小坪：シャルコマリーって言われてなんにも思わなかったん？

内村：幼いながらに、なんか病気になると思ったけど「何言うтонねん。このオッサン！」って思った。

足立：障害が分かってからはリハビリとかしてたんですか？

内村：周りからは「リハビリをしたほうがいい！」って言われても、私は足がちょっと曲がってるだけで今までと変わってないから、リハビリはやりたくないって言ってたし必要性を感じてなかったからね。

山下：障害が分かってすぐにリハビリした訳じゃないんやね。

内村：リハビリしないまま2年経って、小学校3年生の時に「足が曲がってるから手術しよう。」って言われたんよ。

小坪：それで障害児施設に入園するの？

内村：うん。でも手術する順番を待たないといけなくて、私、小さい時も太ってたから、お母さんが歩かれへんくなった間、またリハビリして歩くようになるん大変やから出来るだけ痩せようってことで、和歌山の学校へ行った。

足立：和歌山の学校？

内村：そう。登校拒否と肥満の人と喘息やアトピーを持ってる人が行く学校。手術の日が決まるまでちょっと痩せた方がいいやろうということで入ってた。

足立：そこの学校にいる人達って内村さんと同年代の人は何人位いたんですか？

内村：中学生が多くて小学生の女の子は1人だけやってん。だから、みんなに可愛がってもらってん。そのときに洗濯とか掃除とかも覚えたし。

松崎：そこには、どのくらいの期間いたんですか？

内村：半年ぐらいで10キロぐらい痩せました。

小坪：半年で10キロ！

内村：朝起きて畑仕事して、ラジオ体操、太極拳して、グラウンドを5周ぐらい歩いてそれ終わってからご飯、その後掃除して、それから学校へ行くねん。

山下：朝からハードやね。

内村：午後は肥満の人は運動の時間。登校拒否の人は自分の好きな事（バスケットボール）とか、喘息やアトピーの人達は自分の体についての勉強をした。

小坪：そんな所があるって初めて聞いた気がするなあ。

内村：それが終わったら、また畑仕事してたもん。

足立：めっちゃくちゃハードじゃないですか！

内村：そりゃ10キロ痩せるでしょ。夜は晩ご飯のあとも運動とか宿題したりとか。

松崎：週末も同じような事をやってたんですか？

内村：週末は家に帰れるんです。慣れるまでは母親とか同じ寮のお姉ちゃんと帰ってたけど慣れたら1人で和歌山から東淀川まで帰ってました。

松崎：じゃあ半年間ほど和歌山の学校に行って、手術日が決まったから大阪の障害児施設に入ったんですか？

内村：半年ぐらいで10キロぐらい痩せました。

小坪：半年で10キロ！

内村：朝起きて畑仕事して、ラジオ体操、太極拳して、グラウンドを5周ぐらい歩いてそれ終わってからご飯、その後掃除して、それから学校へ行くねん。

山下：朝からハードやね。

内村：午後は肥満の人は運動の時間。登校拒否の人は自分の好きな事（バスケットボール）とか、喘息やアトピーの人達は自分の体についての勉強をした。

小坪：そんな所があるって初めて聞いた気がするなあ。

内村：それが終わったら、また畑仕事してたもん。

足立：めっちゃくちゃハードじゃないですか！

内村：そりゃ10キロ痩せるでしょ。夜は晩ご飯のあとも運動とか宿題したりとか。

松崎：週末も同じような事をやってたんですか？

内村：週末は家に帰れるんです。慣れるまでは母親とか同じ寮のお姉ちゃんと帰ってたけど慣れたら1人で和歌山から東淀川まで帰ってました。

松崎：じゃあ半年間ほど和歌山の学校に行って、手術日が決まったから大阪の障害児施設に入ったんですか？

～障害児施設の生活、初め戸惑いました～

内村：そうですよ。入って1週間後に手術しました。

足立：どんな手術ですか？

内村：日本で7人目の骨矯正（イリザロフ）手術です。

小坪：日本で7人目！？

松崎：イリザロフってどんな手術ですか？

内村：足を串刺しにしていっぱいネジがついていて1日1ミリずつ動かして足の骨を少しずつ動かしていくのすごく時間がかかるんですね。

小坪：あれは見るからに痛そうやんね。

内村：1日1ミリずつやから、痛みもマシといえばマシ。軟骨無形成症の人の中にも同じ手術をやっている人もいました。

内村：イリザロフは今でもあるよ。



イタそっー！

(注：内村さんの写真ではありません)

松崎：イリザロフの手術した後もリハビリしてたんですか？

内村：筋力落ちるから足上げ50回と腹筋50回やってました。イリザロフの重さが2～3キロあって、それがおもりになって、リハビリになってたんやと思います。

小坪：確かイリザロフってネジを回さないといけないんやんな。ネジは誰が回してたん？

内村：初めは看護師さんがやってくれてたけど「出来る」って判断されて、回し方教えてもらって自分でやってた。

足立：その時は何年くらい入院したんですか？

内村：1年ぐらい。

松崎：障害児施設での生活はどうでしたか？

内村：初めは痛くてしんどかったし仲良い子達のグループが出来てて、すぐに馴染めなくて寂しい気持ちやった。

足立：確か前に話聞いた時に「障害児施設は第2の家」みたいな感覚だって聞いた覚えがあるんですが、どんな心境の変化があったんですか？

内村：障害児施設に行った時に初めて障害を持った子ばかりの中に入って、障害者に対して「自分も同じなんか！？、私は違う！」と思った。

小坪：何でそんな思いが湧いてきたんかなあ？

内村：違う目で見てたんやろうね。そんなに自分の中では意識なかったんやけど同じなんかと思ったら凄いショックやって。

小坪：そうやったんか。

内村：脳性マヒの子がご飯を手で握りながら食べてるのを見たり、鼻水とかよだれが出てるのを見て初めは「この人たちとは生活できへん」って正直思ってしまったんよ。

～障害第1受容?でもよく泣いてました～

小坪：あんまりそう見えへんかったけど。

内村：手術が終わって、初めて歩けなくなって、初めて何か出来ないってなった時にそれがショックやった。術後、5日間ぐらいずっと泣いてた。「殺して、殺して」って親にも言って泣き続けとった。

足立：その状況からどう立ち直ったんですか？

内村：看護師さんに怒られて我に返って。

松崎：もう少し具体的に教えてもらえますか。

内村：重度の障害を持つ子たちと一緒に過ごす中で、面白い事もあったし、ケンカもしたけど、でも仲良くお風呂も入るし、いつも一緒に居てるから、人それぞれの状態があって、それぞれのやり方があるってのを小さいながらに思っ、歩けない状態が自分の中で普通に思えてきたんです。

松崎：それが第1受容みたいな感じ？

内村：そうですね！その時に自分の病気は、だんだん進行していく病気で力がなくなってきたら出来へんことも増えてくるなあって小学生やったけど理解は出来ました。



夢宙センターでの取材の様子

足立：障害児施設の時の生活の流れを教えてください。

内村：朝は6時。でも、5時30分に起きて、自分の身支度して6時になったら他の子を起こして、服着替えさせて、洗面して食事介護して手伝ってました。

松崎：障害児施設には小学校4年の時以外にも入ってたんですか？

内村：中学校2年生から中学校卒業するまでいてたし、高校の時にも骨が欠けてたことがあって夏休みに3週間ぐらい入院してました。

小坪：結構何回も入ってたんやね。生活面で色んな制限があったけど、しんどくなかった？

内村：年齢を重ねるほどに色んな事に自由がなくてしんどくて悔しくて泣いてた。

小坪：個室じゃなかったけどどこで泣いてたん？

内村：グランドの隅とか食堂の屋根で泣いてた。



～それぞれの当たり前～

小坪：障害児施設では勉強よりもリハビリ優先やと思うけど勉強とかは苦労せえへんかったん？

内村：英語が出来へんかった。小学校の5年の時にローマ字を習うんやけど、地域の学校と障害児施設の学校を転校するときにローマ字を習いそこねたままやって、アルファベットはわかってるけど、なんか入って来なくて英語が苦手なまま。

足立：勉強以外でしんどかった事はなかったですか？

内村：地域の学校に戻ると自由はあるけど、体力的にはみんなと同じ事をしたいけど出来なくてしんどかったし、逆に障害児施設の時は、体はしんどくなかったけど心の自由がなくてしんどかったかな。

足立：普通学校で周りに合わそうと一生懸命になるのはよく分かります。

内村：障害児施設ではこの環境が当たり前。地域の学校の時はこの環境が当たり前。2つの生活のパターンがあった。

小坪：分かりやすい表現やわ！今までが中学生くらいまでの話かな。高校時代の事も教えて。

内村：高校は自宅の近くにある学校に行ってた。

小坪：高校は楽しかった？

内村：さっき話したような体力面でのしんどさはあったけど、友達と会うのは楽しかった。

松崎：クラブ活動とかはしてなかったんですか？

内村：興味がなかったです。学校は友達と会うところ。学校終わったらマクドナルド行かなアカンし、カラオケ行かないとアカンしね（笑）

～就職目指し職業訓練校へ～

松崎：高校を卒業からはどうしたんですか？

内村：行ってた高校は進学より就職率が高かったんですよ。元々働きたいって思いが強かったから就職目指してました。

足立：就職先はすぐ見つかりましたか？

内村：そんな事ないよ。障害児施設のケースワーカーに相談して職業訓練校を教えてもらった。早く自分で生活ができるようになりたいと思って、あえて遠くの岡山にある職業訓練校に行きました。

小坪：何を勉強してたん？

内村：訓練校の先生から大阪は事務職が多いからと、一般事務科を選んで、ワード・エクセル・簿記・ビジネスマナーを広く浅く勉強した。

松崎：面接は何社くらい行きましたか？

内村：結局7社目で就職が決まりました。面接で「こんにちは」って部屋に入った瞬間に、総務の部長に「君決まり！」って言われて、その挨拶ただけで内定・・・？

小坪：そんなんあるんやな。

内村：笑顔が良かったみたい。色んな話もしたけどね。でも結局1年8ヵ月で体調崩して辞めたけど、その時のメンバーとは今も連絡取り合うぐらい仲がいいねん。

小坪：車の免許はいつ取ったん？

内村：会社を辞めて時間があつたから免許を取りに行ってる。

足立：免許を取ってから就職活動を再開したんですか？

内村：そう。また就職活動して仕事が決まったけどインフルエンザで体調を崩して障害児施設に入院したんです。

～自立生活夢宙センターとの出会い～

松崎：自立生活夢宙センター（以下、夢宙センターと略す）に関わるきっかけは何だったんですか？

内村：障害児施設のケースワーカーに、二十歳の頃から「人の話を聴く仕事せえへんか」って言われて「人の人生に関わる仕事なんて無理！」って断り続けてたんやけど、インフルエンザで体調くずして入院した時に今の状況を変えたくて、2004年に夢宙センターを紹介されたんですよ。

足立：ずっと一般企業で働いてきて自立生活センターを紹介されたんですよ。紹介されたときどう思いましたか？

内村：まず「自立生活センターって何？」とか「何で施設がアカンの？」とか色々考えた。

小坪：障害児施設が第2の家やと思ってたんやもんね。

内村：でも夢宙センターに行くようになって、色んな人と話す中で「自分が変わっていく」のが見えてん。

松崎：どんな風が変わったんですか？

内村：関わっていく中で「自立生活センターは必要な場所」やなって思ったんですよ。それだけじゃなくて「ここで働きたい！」と思うようになったんです。

小坪：スタッフになったばかりの時って分からん事とか多かったんちゃう？

内村：分からない事が多かったから夢宙のスタッフと交換日記して疑問に思うことをノートに書いて質問してたよ。

足立：どんな事を疑問に思ったんですか？

内村：「ILPってなに？」とか「なんで施設がアカンっていうのがわからへん」とか質問してたわ。

松崎：夢宙センターで内村さんはどんな事を担当してるんですか？

内村：機関紙の編集とか女性障害者の相談を担当してます。

小坪：作業所メンバーのフォロー役もやってなかったかな？

内村：何かあったら入る感じで作業所に行ってる。何もなくても関係作ってないとアカンと思ってるから今でも行ってる。

足立：相談を受けるときに心がけている事はどんな事ですか？

内村：気をつけてる事はいくつかあるかな。まずは「聴く」こと。次は「先回りをして動かない」こと。

足立：もう少し教えて下さい

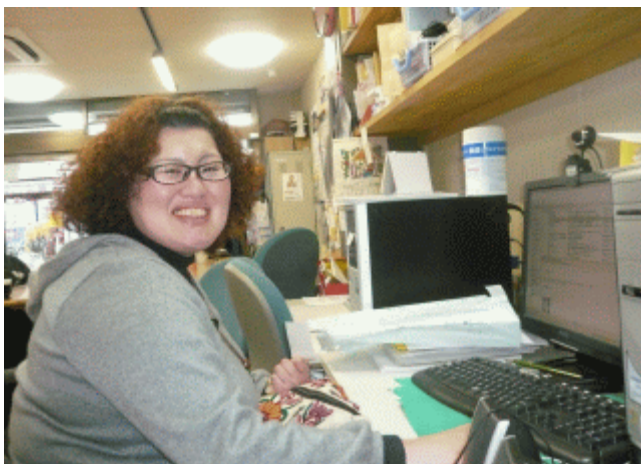
内村：まず聞かへんとわからんし、聞いてもらうことで落ち着けたりするやん。それと相談者の人生・生活やから気持ちや状況を確認しながら動かないとね。お客様ではないし、人任せにすんじゃないで、自分のことなんやと意識してもらえように心がけてるかな。

小坪：「自己選択・自己決定・自己責任」やね。

内村：最終的に決めるのは「あなたが決めたらいいんやで」ってよく言ってるけど、こちら側が先回りして動いてしまう事も正直あるねん。でもそれは経験を奪ってしまう事にもなるから、どれだけ寄り添って動くかを考えると、いつも悩むし難しい。
小坪：基本的な事やけど常に意識しとかなないと先回りしてしまいそうになるもんね。
松崎：以前は障害児施設は第2の家とか家族みたいな存在だったんですよね？夢宙で色々な仕事をするようになって意識は変わりましたか？
内村：お風呂も毎日入れないとか地域生活では「当たり前」に出来るはずの事が施設だと「出来ない」のは良くないと思うようになりました。

～夢宙センターに関わりだして～

山下：内村さん自身、車イスに乗るようになった時に抵抗はなかったんですか？
内村：歩ける間は歩きたいと思ってたし初めは抵抗はあったと思う。夢宙センターのみんなと活動する中で普通になってきた。
足立：夢宙センターに関わりだしてから、1人暮らししたんですよね。始めるときには不安とありましたか？
内村：不安はなかったよ！中学校時代から早く働いて自分で生活したいって思ってたから。でも一般企業の際は体がボロボロやったから、1人暮らしどころではなかった。夢宙センターに来て、自分にも出来ると思ってお金がたまったら1人暮らししようと思ってた。
松崎：ヘルパーを使うことに対しての不安はありましたか？
内村：1人で生活しようと思った時に、1人で「出来る事」、「出来ない事」っていうのがイメージ出来なかったから初めの1ヶ月間はヘルパーなしで生活してみました。
足立：まさに今僕も自分で「出来る事」、「出来ない事」のイメージがつきにくいからヘルパー派遣は受けていないんです。
内村：自分の中で「余裕で出来る部分」と「無理して出来る部分」と「全く出来ない部分」を自分で整理して、納得してからヘルパー派遣を受ければ良いと思うわ。
小坪：俺自身も初めの数ヶ月はヘルパーを使わずに生活してたわ。初めてヘルパーに指示を出すときって難しくなかった？
内村：初めはヘルパーへの指示の出し方が分からなくてしんどかったし、ヘルパーと一緒にいることがしんどい時期もあった。
松崎：今はどうですか？
内村：今は介助者がいる事で出来ることが増えていくし、やりたいことが出来やすくなるっていうのが実感できてからは、毎日、朝、晩ヘルパーに入ってもらってます。
足立：介助者がいる事でどんな事が出来るようになりましたか？
内村：着たい服が着られるし髪型も気分によって変えられるし、お菓子作りもするようになったし、生活の幅が広がったっていうのが大きいな。
小坪：ちなみに障害程度区分は？
内村：区分5。去年の春ぐらいまでは区分4やった。障害が進行して介助の部分が増えたのと自分のやりたいことも増えたから時間数が足らなくなってきて。



～ 2009年ASIA TRY ～

～TRYとは～

TRYは1986年に始まり、大阪―東京、旭川―札幌、仙台―盛岡、高松―松山、鹿児島―福岡、福岡―東京間などを歩き、誰もが自由に安全に乗れる鉄道を目指して駅のバリアフリーを訴えながら歩きました。2007年のASIA TRYに参加した各国の障害者が、自分の国でもTRYの活動をやりたいと立ち上がり、日本で研修を受けた台湾の障害者が中心となり2006年に新活力自立生活協会が台北に設立され、この協会が中心になり、ASIA TRYin台湾を行いました。

した。TRYの目的は「歩く事で社会に障害者の現状を訴え、仲間と一緒に楽しみながら社会を変えていこうという野宿と徒歩の旅です」
(メインストリーム協会のHPより抜粋)



足立：外部との関わりも多いですもんね。最近の話で言えばトライですよ。（以下トライと略す）

内村：トライの時は、募金とかもやったし。会議もあったし忙しかった。

小坪：今回は日本のリーダーという立場やったし前回とは違う充実感があったんちゃう？

内村：2年前のトライと今回のトライと自分の中での意識が全然違うかった。

松崎：どんな違いがありましたか？

内村：2年前のトライは、一緒になって「韓国を変えよう」と思って参加して、自分の出来る範囲でしかTシャツ売るとか、募金するとか決まったことしかしてこなかった。

小坪：俺も前回のトライには参加したけど同じように言われた事をやるって感じになってしまったわ。

内村：前回は初めての経験をたくさんして「面白かった！」って帰ってきたんですよ。でも今回はリーダーだったんで色々考えました。

松崎：日本メンバーと他の国から参加するメンバーだったら意識の違いとかありますか？

内村：アジアの国々は自立生活センターも少ないし、「自立生活運動の歴史」とかを伝えてきてもらってるわけでもないし、外に出にくい状況でもあるから当事者の力量や思いも日本と違うんです。

足立：確かにトライに対する温度差は参加してて感じましたね。

内村：国によって色んな違いもあるし、アジアの障害当事者たちが「自分達が社会を変えるんや！」と思えるきっかけのトライになればいいなと思って取り組んでた。

小坪：1週間とか10日間ぐらいで完全に意識が変わるはずもないし「きっかけ」になれば意味があるもんな。

内村：今回、日本からは若手が多かったし、アジアのみんなを含め、自分達が動かないとアカンねんなあっていうのに一歩近づけたらいいかなあ。って思ってたよ。

松崎：逆に日本メンバーに対して感じてた事とかありますか？

内村：日本メンバーに対して思ってたのは、アジアの人たちのことを把握した上で、自分はどうか関わっていけばいいかっていうのを考えていってほしかった。

松崎：なるほど。

内村：外にも出ていない障害者に「社会を変えよう！」って言っても難しいのはよく分かるし、台湾と日本との間で温度差があって当たり前やと思うんです。

小坪：トライを通して現状を見てきた恵美ちゃんが言う一言に重みがあるよね。

足立：僕の中では、トライが終わってあんまり時間が経ってないのに3年ぐらい経った感覚があるんですがトライが終わって今回の反省点がありますか？

内村：たくさんあるけど、今回のトライは、関西メンバー・東京メンバー・沖縄メンバーを繋いで、うまく連携が取れなかったのが反省点。でも旅自体は楽しかった。

小坪：トライが終わってから台湾に行ってたよね。台湾のメンバーは良い意味で変わった？

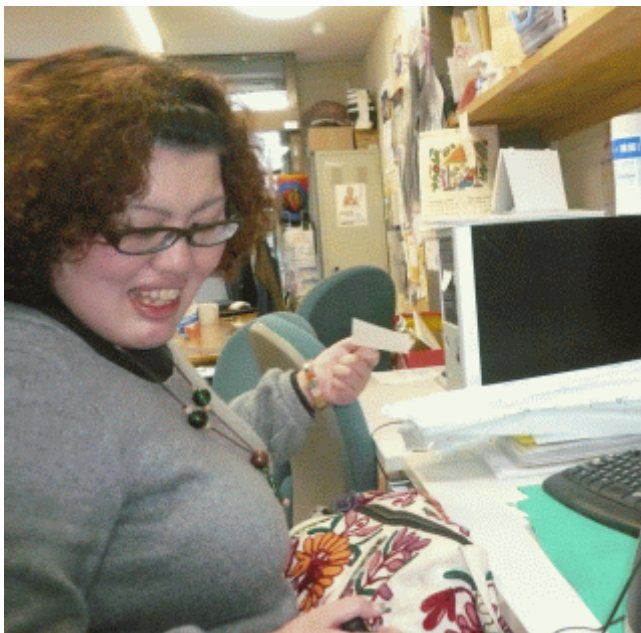
内村：トライが終わって11月ごろに台湾へ行ったけどトライがきっかけで自信がついたみたいかな？みんなが明るくなってたのが印象的やったよ。

足立：トライ中は色々意見の違いからケンカもしたし、トライの意義とかを何とかして伝えたいっていう思いもあったんやけど、もう一歩踏み込めなかったけど、そんな事聞いたりしたら嬉しいですね。

内村：トライは社会を変える運動やけど、参加者の自立生活プログラムみたいなものやと思

う。難しさも楽しさもあったけど良い経験をさせてもらった。

小坪：俺は今回のトライに行っていないけど、前回よりも準備段階から関われたからすごく充実感があったわ。



お仕事中の内村さん

～これから～

松崎：内村さん自身がこれからやりたい事がありますか？

内村：去年はトライがあったり、他のセンターの人達と動くことが多くなって、夢宙センターの利用者さんとおる時間が減ってしまったところがあるから、今年は利用者さんとの時間をまた作っていききたいし、自立に一步近づくように関わっていききたいです。

松崎：プライベートでやっていきたいことはありますか？

内村：スキューバダイビングとか、空を飛ぶとかもしてみたい。陶芸とかもしてみたい。やりたいことは、いっぱいありますよ（笑）。

松崎：色んな話がたくさん聞けて面白かったです。今後の活躍にも期待してます！
長時間ありがとうございました。



気になっていた事を調べてみました！

ネットカフェ編第2弾！～梅田編～

インターネットカフェmediacafe POPEYE 梅田DD HOUSE店

調査日：2009年11月27日（金）

調査者：電動車いす使用者1名

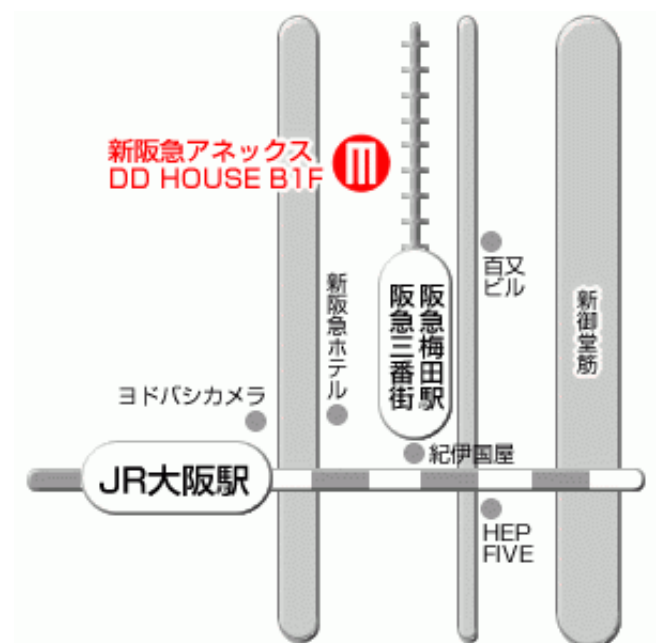
手動車いす使用者1名

電話：06-6455-0069

ファックス：06-6455-0043

住所：大阪市北区芝田1丁目8-1

DDハウス地下1階



営業時間——年中無休 24時間

mediacafe POPEYEは、DD HOUSEの地下1階にありエレベーターで移動可能。

しかし、エレベーター・エスカレーターとも0時になると止まってしまい階段しか使えなくなってしまうので0時以降利用が出来なくなる。

DD HOUSE入り口スロープの幅・・・約106cm



料金

○オープン席

基本——最初の1時間400円。以後10分65円

ナイトパック——5時間980円

○リクライニング・ビジネス席

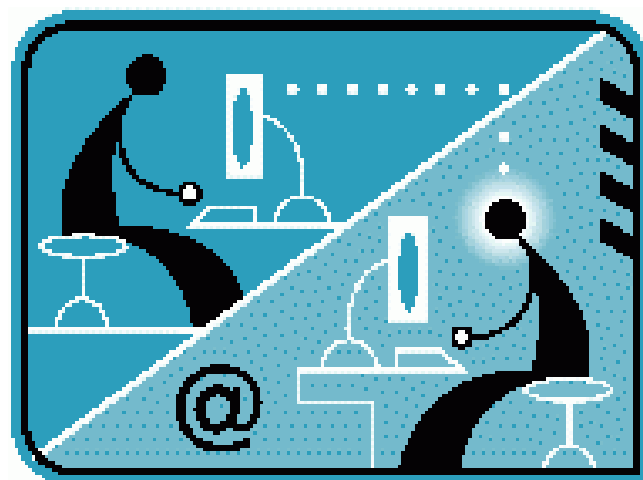
基本——最初の1時間500円。以後10分75円

ナイトパック——5時間1,560円

○ペア・マッサージ

基本——最初の1時間500円。以後10分85円

ナイトパック——5時間1,770円



席数——210席

オープン席 机の高さ——71cm



個室の入り口の幅——42cm

広い通路の幅——約227cm





エレベーター——ボタンの高さ（外 120cm） 入り口 約90cm

定員——15名 重量——1,000k

トイレの状況

店内に障害者用トイレはなく、1階の新阪急ビルの障害者用トイレを使うのが一番便利！

最後に・・・。
店長さんからのコメント！

コミック、雑誌は西日本 NO.1

店内の通路も幅広く、車イスの方でも通りやすいと思います。

会員制で安心してご利用いただけます！

調査を終えての感想！

今回の調査は調査エリアを選び、車いすで利用できそうなネットカフェをピックアップする事から始めました。梅田にネットカフェは多くあったんですが、まず入口がフラット又はスロープ有りの店舗を探すのは予想通り難航しました。

今回探し回って見つけたのが『インターネットカフェmediacafe POPEYE梅田DDハウス店』です。しかし残念ながら0時を過ぎるとエレベーター・エスカレーターともに使えなくなりエレベーターが止まってしまうんだとか。階段のみになってしまうと僕みたいな車いす使用者は利用しにくいので困ります。でもこういう店舗は多そうですけど・・・

果たして本当の意味で、障害者が24時間いつでも利用が出来るネットカフェは見つかるのでしょうか？

今後も地道に調査をしていきたいと思います（笑）

次回は調査エリアを変えて情報をお伝えしたいと思います。乞うご期待！

店内に入って驚いたのが、本の数の多いこと！多いこと！自動販売機もあったりして、お菓子とジュース片手にコミック本☆こりゃあ、本好きには、たまらない場所でしょ～なあ。車イスが通れるように通路も確保されてるし。自分の世界に浸りたい障害者には、もってこいの場所だと思います。あとは、店内に車イストイレがあれば～～～～っ！！

山下大祐

私を支えてきたものは……！？

岸田 美

智子

前回は学生時代の思い出や出来事、そして養護学校（現・支援学校）での特殊教育の問題を中心に書かせてもらいましたが、今回は“卒業後の私を支えてきたものが何なのか”を、振り返ってみたいと思います。

私が養護学校を卒業した頃は、先生から「青い芝の運動には関わるな」と、なぜか教えられた時代です。青い芝のメンバーは、脳性まひの当事者集団として自己主張されていただけだったのに、なぜ、こういうメッセージが私に伝えられていたのか！？未だに私は不思議に思っています。裏を返せばやはり、障害者の自己主張はあってはならないものだし、社会に受け入れられていなかったのだと、いまさらながら実感できます。



私が障害者運動に関わったのは、高校卒業後すぐに関わった“サークルWC”が初めてです。このサークルWCは、小学校の同窓会があったもののやはり、重度障害者のメンバーはほとんど参加できていなかったもので、卒業生であった重度障害者のT氏を中心に街に出よう！！という運動を進めていました。その後、私とT氏も含めた5人の重度障害者で働く場がほとんどなかったので、印刷会社「セルフ社」を作ったりしました。初めて給料をもらったのもこのセルフ社でした。なぜこのような障害者運動に私がずっと関わっていったのかは、やはり入所施設の問題で女性障害者への強制的な子宮摘出問題にぶち当たったからだだと思います。この子宮摘出問題は、人間の存在を優と劣に分けてしまう優生思想そのものだと気がついたからです。社会から排除される存在で差別によって身体を傷つけられたり、殺されたりすることがあるのだと実感できたからだろうと思います。

その問題をテーマにした「私は女」という本を発刊できたことも、今はよい思い出になっていますし、私の原点だと思っています。その本を発刊するきっかけになった、私の文章を、もう一度この場で紹介したいと思っています。

今、私の頭と身体から離れられない問題にNさんのことがある。それは、典型的な重度女性障害者の子宮摘出の問題です。Nさんは、トイレや食事はもちろん、全面介護がいますし、いつもうつぶせに寝たままで、1時間おきに緊張のため（脳性まひ者に起こる不随運動。意思と関係のない全身のつっぱり）手足が痛くなります。そして、ベッド型の車いすに乗り、いろいろな介護者を見つけて、どこへでも行く二十七歳の女性でした。そんな彼女は、私達重度障害者に、多くはつきりみられるように、親からも、男性や社会からも、女性として生きることを否定されるのです。その結果、性に対してすごく憧れたり、全く絶望してあきらめたりするのです。そして親などが歳をとって、体力的に子どもの介護に自信がなくなってくると、安易に「おまえは自分のこともでけへんし、結婚などもでけへんねんから、毎月こんなしんどい生理なんか、ないようにしてしまおうや。あったってしょうがないやろ。おまえが一人になったときも、ちょっとでも他人に迷惑かけんですむやろ」などと親から言われて、本人も「生理があると介護者もしんどがるし、街には私にも使えるトイレがないから、生理の日は家から外に出られへんし、他人に“ありがとう”とばかりいわなあかんしんどさや、介護者さがしのしんどさのことを考えたら、生理なんてないほうがええんや。子宮なんか摘ってしまおう。そうしたほうが少しでも楽に生きれるんや」と思いこまされてしまうのです。

差別や偏見は、教育や仕事や生活などを奪うだけのものでなく、障害者の場合、簡単に自分の身体の一部をとられたり、優生保護法のもとで殺されたりするのです。

話をNさんのことに戻しますが、女性として生きることを否定されてきた彼女は、セックスがどんなものなのか、正しい知識も与えられてこなかったし、まして体験などあるはずがありません。ただ単純なあこがれから、介護者の男性とセックス的な問題を起こしてしまいました。娘がセックスのことなんか考えているとは、思いもしたくないし避けてきたNさんのお母さんは、この事件が引き金になって倒れてしまわれて、お母さん自身も障害者になって、Nさんの介護ができなくなってしまいました。

Nさんは仕方なく、山奥の施設という箱の中で生きていくことになり、二年以上が過ぎました。私も一度だけしか行っていませんが、バス停から歩いて四十分ほどかかったと思います。歩いても歩いても、見えるのは山ばかりで、本当にこんなところにあるのかと心細くなったのをおぼえています。途中で豚小屋があったのですが、その豚小屋の方が駅や人家に近いなあという恐ろしさと怒りを感じて、私の身体が硬くなったのをおぼえています。本当に隔離・選別の施設の姿でした。



当時の岸田さん

そんな施設から彼女が帰れるのは、お盆と年末年始だけです。そして家に帰った彼女から、この施設での生活について聞くことのできた私は、愕然としました。お母さんもびっくりしておられましたが、太ったら介護がしんどいということで、ご飯はほんの少ししか食べさせてもらえないし、トイレも何時までにしなさいとかいわれるそうです。そして、ある寮母さんからは、家に帰るとき「あれ、ないようにしといでや。今度もどるときまでに。K子ちゃんはいえ子やから、このあいだ摘ってきやったのに。あんたはあほやなあ」と、子宮をとることがまるであたりまえのように強制されるそうです。そしていまは「いやや!」とだけしかいえないNさんに「おまえは家に帰っても、いろいろしゃべるからあかん」といわれる毎日だそうです。

今私は、毎月の生理介護のしんどさにつきあい、子宮ともつきあっています。そして生理日でも、目的があり介護者が見つければ、どこへでも行くようにしています。そのときはなるべくトイレに行く前に「今日はアンネの日やねん」と、しんどいことを先に言うのです。そうしていくと、私も子宮を摘ってしまおうかという母とのどうしようもない対話のしんどさも、介護を頼む気持ちの負担なども、なぜかみんなのしんどさになって、私はあまりしんどくなくなってきました。そんなことを通して子宮とのつきあいを、そして施設という、あの箱に入れられてしまったNさんのことを、いつも考えていきたいと思います。私もNさんも女性なのだから。

この文章を書いたときに、身体で感じた怒りや怖さは、忘れることはできないし、私の人生の支えになっていると、振り返ってみて改めてそう思います。そして、障害者に少しづつ配慮されていく社会の実現は、このような身体から感じる怒りや怖さは、なくなっていくのでしょうか？

そんな共に生きる社会は、かえってもろくて危ないような気がする今の私です。



1995年グループホームほんわかにて（向かって左から2番目が岸田さんです）

編集後記

最近また寒くなってきましたね。毎日雨続きなので晴れた空が懐かしいです。

さて今回の「自立生活の最前線から」はどうだったでしょうか？今回インタビューをした内村さんの好きな言葉はTAO(自然体)だそうです。内村さんとは普段から一緒にををする機会も多いので今回もリラックスして取材ができました。とある編集スタッフから「リラックスし過ぎ！」と言われたほどです(笑)

インタビューの中で内村さんが言われた「施設での当たり前」・「地域生活での当たり前」の話はとても印象的でした。内村さんは進行性の障害ということもあり障害受容に時間がかかったと聞きました。その他にも、夢宙センターに関わり始めた当初は、色んな戸惑いもあったと聞きましたが、幼なじみでもある内村さんが、今では全国やアジアにも活躍の場を広げている事が自分にとってもいい刺激になります！

自分自身もTAOを忘れずにこれからも色んな事に取り組んで行こうと新たな気持ちになりました。
(こつ
ぽ)

みなさん、こんにちは。季節は、もう春ですね。ずいぶん前の話ですが、みなさんバレンタインデーとホワイトデーは、いかがでしたか？今年のバレンタインは「友チョコ」とか「逆チョコ」とかが流行っていたそうで…。ちなみに「逆チョコ」というのは、バレンタインデーに男の子が女の子にチョコレートを贈ることを「逆チョコ」と言います。(この説明で、たぶん、あっているはず。)ホワイトデーがあるやないか(怒)と思ってしまふんですが、みなさんは、どう思われますか？

さて、今回のナビゲーションでは、ネットカフェを調査しました。なかなか、車椅子で利用できる場所は、ないものですねえ。何ヶ所か探したんですが、入り口に段差があったりとかで入れないところが多かったです。

(やました)

▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽-△-▽

自立生活センターナビとは…

☆ 私たちの考える「自立」は…

働いてお金を稼ぐ事や身の回りのことを全部自分で出来るようになる事、それだけが「自立」でしょうか？もちろんそれも大切なことですが、できない事は人の手を借りたり、気持ちを上手く伝えられないときには仲間にサポートしてもらったりしながら、一人一人の生活を創っていくことも「自立」に色々な方法でお手伝いしていきたいと考えています。

☆ 地域で障害者の自立を実現していくための「道案内(ナビゲーター)」として例えば「介護してくれる人を探しているんだけど？」「家の中をもっと使いやすくしたいけどどうすればいいの？」そして「自立したいけど自分には無理かな？」

自立生活センター・ナビでは、こうした障害者や家族の悩みや相談について、障害を持つピアカウンセラーが同じ障害者の立場でお話を伺い、制度の説明や申請のお手伝い、住宅改造などのアドバイスをさせていただきます。その他、電動車いすで街へ出かけた

り仲間と一緒に料理を造ったり地域で生活していく上で必要なことを、楽しみながら経験できる「自立生活プログラム」や、自立生活に関わる各分野の方々をお招きしてお話を伺う「自立生活セミナー」の開催、情報誌「ナビゲーション」の発行も行っています。

はつこ

発行

じりつせいふ

自立生活センター・ナビ

でんわ 06 (6760)2671

じゅうしょ

住所

〒546-0042 大阪市東住吉区西今川2-3-8

おおさかかしひふしやふとしごひかいふお

ファックス 06 (6760)2672